

2021/2/28-2

(うと Q 世話し うと Q 的ホラー劇場)

以前にもこのタイプの記事を書きましたが、時々自分の頭の中を「うと Q 的」に怖いと感じられる思い付がよぎる事があります。

本日の副題は「衰退退場勧告」

最近、出生率の低下が取沙汰されております。

未婚率 up とか、夫婦間の sexless 傾向とか、気力の衰え等原因不明の無気力症状や、潜在的なうつ病予備軍の増加とか、いろいろな原因が考えられます。

或いは、その総合値が出生率の低下に繋がっているのかもしれませんが。

(今回は、話を見え易くする為、敢えて経済的な理由は脇に置く事にします)

この「出生率の低下」という言い方は、生物界に当てはめてみますと

「繁殖力の低下」即ち「種としての衰退 (衰え、下り坂)」と言い換えることが出来そうです。

そうして今ひとつは、コロナ渦、台風雪水害、山火事、異常気温現象、巨大地震などの自然災害の増加が近年急激に増えておりますが、これを人間以外の視点、即ち地球様視点に成り代わって見てみますと

「人類への地球、表舞台からの主役退場勧告、引退勧告」とも取れる気もします。

「碌な事しないし、(特に先頭集団=先進国は) 精力も衰えてきたのだから、そろそろ消えたらどう？」

という訳です。

しかし人間様である自分は、

「ですよ。はい、分りました。消えます」

とは絶対に言えません。なぜなら人間である自分は

「そんな寂しい人生 (人目人科生) は真っ平御免」だからです。

ならば、どうすれば良いのか？

単に、成長や活動を「我慢して忍ぶ」という負の加圧一点収斂封鎖力学方向ではなく、

「生き生きとした生命力 (繁殖力) を持ち、元気に活動するけれども、地球の邪魔にはならない又は有用な存在となれる生き方、暮らし方、楽しみ方」

という正の減圧多方向開放発散推進力学方向での、です。

そういった地球様との折り合いを付け、尚且つ自分自身も生き生きと楽しい、相互扶助的で調和されたあり方。

それこそが、ニューノーマルと言える「新しい価値観」なのではないかなあと考えております。

今後、覇権国家がどこになるか？とか、DX 等でテレワーク等の働き方改革はどうなるのかとか、GAFA の後の勝者はどこか？等と云ったレベルでの、ニューノーマル模索と喧伝されているのは、将に今までの延長線上の議論でしかないような気が致します。

この「思い込み」を正し、それ迄に解決実効策の成果の端緒を出すようにしておかない限り、2030年からは、恐らく全世界的に今まで人類が経験した事のない「スペシャルホラー劇場」を目の当たりにする事になる様な気がしてならない昨今でございます。

自分としては、それ迄の時間の無さに相当量「ビビって」おる次第でございます。

一方「サバイバルの極み」である軍事兵法の理（ことわり）によれば「その極意は相手（自然界も）をねじ伏せ、消し去るのではなく、味方に付け、役立てる事」に尽きるようで。

さて2030年迄に我々人間は、その極意を發揮できますでしょうか？